

第2学年C組 技術・家庭科学習指導案

授業者 宗 真理子

- 1 題材名「自立した消費者になろう～商品を購入するときに「考える」必要があるのはなぜだろう～」
C 消費生活と環境 ア(1)金銭の管理と購入(2)消費者の権利と責任

2 題材設定の理由

(1) 生徒の実態

2022年4月1日から、民法が定める成年年齢が18歳に引き下げられる改正法が施行された。そこで定める成年年齢の意味の1つには、ひとりで有効な契約をすることができる年齢ということが挙げられる。具体的には、ローンを組むことやクレジットカードを作ることなど様々な契約が親の同意なしにできるようになったということである。学習指導要領の改訂においても、キャッシュレス化の進行に伴う金銭管理に関する内容が中学校に新設されたり、株式、債券、投資信託等の金融商品特徴、資産形成の視点にも触れるようにするといった内容が高等学校に新設されたりするなど消費者教育だけでなく、金融経済教育について注目されている。消費行動は、衣食住すべてに関わるものであることを意識し、正しい知識を身に付け、よく考えて意思決定を行うことが重要であるということ踏まえ、授業を展開する必要がある。

今回授業を行う2年C組の生徒に家庭分野の学習における題材ごとの興味関心についてたずねると、消費生活の学習は、食生活と家族・家庭生活の次で3番目に高く、消費生活に対する意識の高さが分かる。同時に、難しそう・苦手だと感じる生徒の割合が最も高かった。消費生活の学習についてのイメージについては「分からない」「わざわざ学ぶことではない」「これからの生活に役立ちそう」「自分に関わりが深そう」「自分の生活の基となる学習」という生徒が複数いた。つまり、消費生活に関することについての学習の必要性は感じているが、内容についての困難さについても同様に感じていると確認された。さらに、買い物について質問をしたところ、頻度については、1週間に1回以上と回答した生徒が最も多く、7割を超えていた。その際に意識していることについては、「価格の安さ」と回答した生徒が9割を超えており、次に「デザインや色」「使いやすさ」などが挙げられている。一方で、「環境や社会への影響」「作り手の思い」と回答した生徒はわずか1人であった。電車やバスを利用して通学している生徒がほとんどである附属中学生は、お金を使う機会が多く、1カ月に自由に使うことができるお金も3,000円程度と余裕を持って使っている。しかし、買い物の際に意識する視点の少なさの実態についても確認された。

(2) 題材観

本題材では、中学生の実際の消費生活と関わらせて、消費者の基本的な権利と責任や、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について具体的に理解できるようにする。さらに、持続可能な社会の構築などの視点から、自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫をすることができるようにする。また、計画の作成に当たっては、様々な解決方法を考え、計画を立てて実践した結果を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどの一連の学習過程を通して評価し、よりよい生活にするための新たな課題を見付け、次の実践につなげることができるようにする。また、消費生活や環境問題の当事者であるという意識をもち、家庭や地域で実践する意義について気付くことができるよう工夫する。

(3) 指導観

自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について、自分や家族の消費行動が環境への負荷を軽減させたり、企業への働きかけとなって商品の改善につながったりすることなどを理解できるようにする。その際、衣食住に関わる多くの物が限りある資源であり、それらを有効に活用するために自らの消費行動が環境に与える影響を自覚し、多くの人が行ったり、長期にわたって続けた

りすることが大切であることに気付かせたい。そして、自ら消費生活の在り方やライフスタイルの改善に向けて、品質や価格などの情報に疑問や関心を持ち、自身の行動が社会に影響を与えていることを考えさせたい。なお、生徒によって家庭生活の状況が異なることから、各家庭や生徒のプライバシーに十分配慮しながら取り扱うようにする。授業の実施に際しては、毎回の OPP シートの記述により、生徒の学び方の実態を踏まえ、全ての生徒がどうしてその学習をしているのか理解したり、毎回の学習内容を正しく理解できたりするように指導する。また、生徒一人ひとりが、個に合った自身の考えを表現する方法について気付くことができる支援を行い、自分の「表出」方法を身に付けられるよう指導していく。

3 題材の目標

- (1) 購入方法や支払い方法の特徴、計画的な金銭管理の必要性、売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応、消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解するとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。
- (2) 物資・サービスの選択・購入、自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。
- (3) よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとする。

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解している。 ・売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解しているとともに、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。 ・消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。 	<p>物資・サービスの購入、自立した消費者としての消費行動について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。</p>	<p>よりよい生活の実現に向けて、金銭の管理と購入、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し創造し、実践しようとしている。</p>

5 指導計画および評価計画（7時間扱い）

小題材	時間	○ねらい ・学習活動	◇評価規準（評価方法）			UDLの視点
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
家庭生活と消費	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 物資とサービス、消費生活の仕組み、店舗販売と無店舗販売がわかる。 ○ 支払い方法の特徴を理解し、利点と問題点を理解する。 ・ 自分や家族の消費行動について振り返り、物資・サービスの購入時に関わる問題点を発表し合い、課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物資・サービス、購入方法や支払い方法の特徴について理解している。（ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物資・サービスの選択・購入について、問題を見いだして課題を設定している。（ワークシート） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 金銭管理と購入について、課題の解決に向けて主体的に取り組もうとしている。（観察・ワークシート） 	<p>自分や家族の消費行動の場面を具体的に振り返ることによって、授業内容と実生活の結びつきを実感させ、現実味のあるものとして捉えることで、関心を高める(7.2)</p>
	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 収支のバランスをはかり、計画的に金銭管理する必要があることがわかる。 ・ 模擬家族の1ヶ月の家計の収支のバランスを検討し、各自の考えをまとめ、グループで考察 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画的な金銭管理の必要性について理解している。（ワークシート・観察） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物資・サービスの選択・購入について考え、工夫している。（ワークシート・観察） 		

		し、全体で発表し合う。 ・冷蔵庫が故障してしまったと想定して、修理や購入について検討し、模擬家族での対応方法を考え、全体で良い方法を見付ける。		・物資・サービスの選択・購入についての課題解決に向けた一連の活動について、考察したことを論理的に発表している。(観察)		
購入・支払いと生活情報	3	○売買契約について問題発生の原因や予防方法を含め理解する。 ・消費者被害が発生する背景や被害を回避する方法や適切な対応の仕方について調べ、ロールプレイング形式で発表し合う。	・売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解している。(ワークシート)	・物資・サービスの選択・購入について、実践を評価したり、改善したりしている。(ワークシート・観察)	・金銭の管理と購入について、課題の解決に向けた一連の活動を振り返って改善しようとしている。(観察・ワークシート)	ロールプレイングや観察などを実施することで、様々な観点やレベルから理解できるようにする(3.3)
	4	○生活情報の収集や活用の仕方を理解し、目的に合った商品を選ぶことができる。 ・模擬家族で購入する電化製品について、検討し、発表し合い、評価・改善することができる。	・物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。(ワークシート)	・よりよい消費生活の実現に向けて、金銭管理と購入について工夫創造し、実践しようとしている。(観察)	模擬家族という共通の条件を提示することで、さまざまな環境にある生徒が安心して課題に取り組むことができるようにする。クラス全員が商品選択の検討や話し合いに参加できるようにする(7.3)	
消費者被害と消費者の自立	5	○消費者被害の現状や背景について理解し、予防の方法がわかる。 ○消費者を支えるしくみについて理解できる。 ・小学校の学習を踏まえて、キャッチセールスの事例について考え、発表し合い、売買契約の仕組みについてまとめる。 ・インターネット通信販売の相談事例について、被害にあった原因を販売者と消費者の立場から考え、話しあう。	・売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解している。(ワークシート) ・消費者の基本的な権利と責任について理解している。(ワークシート)	・消費者被害、消費者の権利と責任について、課題の解決に主体的に取り組もうとしている。(ワークシート・観察) ・自分や家族の消費生活に関する課題の解決に向けて、実践した結果を評価したり、改善したりしている。(ワークシート・観察)	生徒にとって身近な「家族」を問題発見の場とすることで、学習に対する意欲を高める(7.2)	
	6 本時	○消費者の権利と責任について理解し、自立した消費者をめざす。 ・チョコレートの購入場面为例として、消費者の基本的な権利と責任について具体的に想定し、考える。	・自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している。(ワークシート)		1人が1枚ずつ選んだ会社にシールを貼ることで、買い物投票であることが明確に分かるようにする。(2.4)	
持続可能な社会	7	○購入を通して消費者の行動が社会や環境に与える影響について理解する。 ・「持続可能な社会の構築」などの視点から、環境や社会のために自身がすぐにできることを考え、計画を立てる。 ・グループで発表し合い、計画を見直す。		・自立した消費者としての消費行動について考え、実践を評価したり、改善したりしている。(ワークシート)	グループ内で意見交換をすることで、消費行動の視点が複数あることを再認識する。(8.3)	

※題材全体を通して、対象学級の生徒を支援するためのUDLの取り組み

- ・レポート作成の際、文章だけでなく、図や絵などの方法でも表現できるようにする(5.1)
- ・OPPシートの活用を通して、学習者が自分の学習状況をモニタリングできるようにするとともに、教師が適切にフィードバックを行い、理解度を把握し、支援できるようにする(6.4)(8.1)

6 本時の学習（6 / 7 時間）

(1) 本時の目標

- ・自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解している 〈知識・技能〉
- ・自分や家族の消費生活に関する課題の解決に向けて、実践した結果を評価したり、改善したりしている 〈学びに向かう力、人間性等〉

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点（・） 評価規準（◇） 【評価の観点】（評価方法） 手立て（→） ○<>UDLのチェックポイント
5	1 前時までの学習を振り返り疑問や共有事項を確認しながら、本時の学習内容について確認し、取り組みの見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの OPP シートを確認し、対象生徒のニーズに合わせた資料を準備しておく。 ○最初に本時のゴールを示し、見通しを持たせる。〈7.3〉
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 学習課題：商品を購入するときに「考える」必要があるのはなぜだろう。 </div>		
3	2 チョコレートを選ぶことについて考える。3つのグループをABC社（売り手）、5つのグループを消費者（買い手）として活動する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ヒントカードを必要に応じて確認することで、売り手と買い手それぞれが必要な視点を理解した上で活動できるようにする。〈3.3〉 ・既習事項である消費者の権利と責任に触れ、様々な情報に対しても疑問や関心を持つことができるよう確認する。 ※3つの会社のチョコレートの例（すべておいしいチョコレート） ・A社：町の洋菓子屋さんのチョコレート ・B社：環境や労働者に配慮したチョコレート ・C社：環境や労働者に負担が大きいチョコレート
15	3 売り手のグループは、自社のチョコレートが1つでも多く売れるような売り込み方法を考える。 買い手のグループは、自分がおやつとして食べるチョコレートはどれが良いか、どのような情報をもとに選択をしたいかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・売り手は、自社に不利益になるような情報でも聞かれた時には、答えなければならないが、自社にとって不利益になるような情報は開示しなくても良いことを伝える。 ・買い手は、チョコレートに関するどんな情報を知った上で商品を購入したいかを検討するように伝える。
5	4 買い手のグループがどの商品を選ぶかを決定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・他の生徒から集めた情報や意見などをもとに、自分の意志でチョコレートを1つ選んで購入を決定できるようにする。
10	5 売り手のグループは、自分なら自社の商品を選ぶかどうかとその理由をまとめる。 買い手のグループは、なぜその商品を選んだのかをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ○1人が1枚ずつ選んだ会社にシールを貼ることで、買い物が投票であることが明確に分かるようにする。〈2.4〉 ・商品選択の理由について、仲間との意見交換ができるようにする。 ・商品を購入するにあたって、必要な情報も知ろうとしなければ得られないことを実感させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ◇自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解しているとともに、適切にできる。 【知識・技能】（ワークシート） </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> おおむね満足できる状況(B) </div>		<ul style="list-style-type: none"> ・自分や家族の消費行動の1つ1つが環境や社会に及ぼす影響について理解しているとともに、情報を収集することや様々な視点を持って商品選択をすることの大切さを踏まえた消費行動をすることができる。 →消費者の権利と責任についてなど既習事項を振り返らせたり、グループでの発表や意見交換を参考にしたりしながら、それぞれの場面でできる適切な商品選択などの消費行動について考えられるよう助言する。
5	6 選ぶチョコレートによって環境や社会に及ぼす影響を理解し、これからの消費行動について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・商品の購入は、投票に例えられることもあることを知らせ、それぞれの消費生活が環境や社会に影響を及ぼしていること、行動の重要性に気づかせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> ◇自分や家族の消費生活に関する課題の解決に向けて、実践した結果を評価したり、改善したりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】（観察、ワークシート） </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> おおむね満足できる状況(B) </div>		<ul style="list-style-type: none"> ・授業を振り返り、他の生徒の意見やアドバイスを参考にして、実践を振り返り、改善策を適切に記入している。 →他の生徒の意見やアドバイスを参考にするように促し、文章だけでなく、図表化、表示している生徒についても成果を認め、音声で表現する生徒の発言に耳を傾ける。最後まで諦めずに表現できるようフィードバックを行う。
5	7 本日の学習を振り返り、OPPシートに記入をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・OPPシートの記述から、各生徒の疑問やつまずきを把握し、必要に応じて、全体や個に対応できるようにしておく。

